

パニック障害を既往に持つ患者に対する運転支援を行った一例

桔梗ヶ原病院

中山 諒太

【はじめに】パニック障害を既往に持つ脳出血患者の運転支援を経験したため報告する。

【症例】40歳代，右利き，既往にパニック障害を持つ女性。X年2月に左被殻出血を発症され，自宅退院後にX年3月より外来にてドライブシミュレーターを用いた運転再開支援を行った。

【経過】初期には速度超過や目視不十分の危険運転の他，過度な緊張や不安を抱き，ミスをした際には興奮する様子を認めた。そのため，運転習慣に対して速度調整から危険予測・対応に至るまでの段階的な修正と，精神面には課題の受け止めに対する認知コントロールを図った。X年10月，最終的に実車評価を経て運転再開に至った。

【結語】感情の起伏に影響を受ける本症例の運転支援では，運転習慣の再構築の他，精神面に配慮した支援が必要である。また，精神面の浮動性により実際の運転場面での安全性が懸念されるため，実車を含めた教習指導員の評価など多角的な視点が求められると考える。